

「共に礼拝堂に集まったの主日礼拝」を休止することに関して

日本ホーリネス教団
委員長 島津 吉成
総務局長 佐藤 信人

言うまでもありませんが、教会にとって主日礼拝をささげることが最も大切な働きでありますし、教会のいのちそのものです。たとえこのような状況であっても、礼拝だけは止めるべきではないとお考えの方もおられるかと思えます。しかし一方で今、「共に礼拝堂に集まったの主日礼拝」の休止を、既に東京都内や近郊地域の多くの教会で、またその他の地域の教会でも実施していますし、更にこれから考えなければならない教会もあるかと思えます。

東京聖書学院教会は、既に3月の第一主日礼拝より礼拝堂に集まったの礼拝を休止しています。その考え方についてまとめておられる文章が、私たちにとってとても良い指針になるかと思えますので、皆さまにもお読みいただきたいと思えます。

~~~~~

### なぜ学院教会は通常の礼拝を休止したか

東京聖書学院教会

学院教会は新型コロナ感染拡大の防止対策として、3月1日よりチャペルでの通常礼拝を休止してまいりました。これは未だかつて下したことの無い決断でした。クリスチャンにとって主日の礼拝を守ることは、信仰そのものを守ることです。他の何が出来なくても、地震や嵐、迫害に襲われようとも、礼拝を守ってきました。「安息日を覚えてこれを聖とせよ」という御言葉に忠実に従ってきたのです。主イエスが復活された後、礼拝日が日曜日に変わってからもクリスチャンたちの態度は変わりませんでした。神を第一とすることは、すなわち礼拝を守る事だったのでした。

国家が私たちの信仰を否定し、共に集まることを禁じるならばクリスチャンはそれに抵抗すべきです。けれども、この度の政府からの自粛要請はそれとは異なったものでした。感染拡大の危機意識をもって人の集まること自体を広く社会に向かって自粛を促したのです。国家の第一の目的が国民の人権と命を守る事にあるならば、まさにその目的の為に発した要請であると理解できます。そこにはもちろん政治的思惑や情報のコントロール等などの異物の可能性も否定できませんが、経済的・社会的ダメージを覚悟しての政府なりの決断であったのでしょう。

残念ながら、私たちは状況判断をするのに十分な科学的情報を自分たちで入手できるわけではありません。様々なメディアからの情報を広く聞き取り、判断しなければなりません。学院教会は、礼拝時に乳児から年配者まで200名近くの人が集まる集団です。その中には何人もの医療従事者、教育関係者、介護関係者も含まれます。会員の方々、その家族が平日に接触する人間の総計は千人単位となるでしょう。多人数が集まる礼拝を控える事は、少しでも東京都の感染拡大リ

スクを少なくさせることになるのです。

教会の目的は福音宣教であることに間違いはありません。けれども、それは神を愛し、隣人を愛することが大前提になっています。主イエスが安息日に人を癒すのを非難した人たちに向かって主はこう言われました、「安息日に善を行うのと悪を行うのと、命を救うのと殺すのと、どちらが良いか」(マルコ 3:1~5)。安息日はまさに人の為に、人を救うために設けられたのです。安息日が人を病に至らせ、命を奪うものであってはなりません。

私たちは礼拝を喜びの場としたいのです。心から賛美し、祈り、心を合わせて主の祈りを唱え、共に信仰を告白し、御言葉に感動したいのです。そして喜びや悲しみを兄弟姉妹と分かち合いたいのです。インターネットによる礼拝は大きな制約があり、手紙や電話、訪問が出来ても兄弟姉妹が一つ所に集まる事は出来ません。これは私たちの痛みです。しかしそれは神に仕える痛みであり、人の命を救う重荷であります。今こそ私たちはたとえ集まる事が出来なくても、キリストの体につながる神の家族であることを覚えたいと思います。互いのために祈り合い、世の為に祈る機会としたいと思います。医療従事者など直接ウイルスと戦う方々、感染者とそこご家族、仕事ができないで経済的な苦境にある方々の為に祈りましょう。私たちの希望は常に神にあります。新型コロナウイルス感染は、私たち人間がいかに小さく弱いものであるかを知らしめました。けれども神は小さな私たちの祈りに答え、この苦境を乗り越える知恵と力と与え、回復へと導いてくださる方なのです。

~~~~~

礼拝出席人数、教会堂がある地域等、どこの教会も学院教会とは異なっていますが、考えなければならない課題は同じです。参考にさせていただきながら、それぞれの地域の状況を踏まえつつ、ぜひ皆さまの教会でもお考えいただきたいと思います。

そしてそのとき大切なことは、「共に礼拝堂に集まったの主日礼拝」を休止することが主日礼拝そのものを休止することではないこと、違う考えの教会のあり方をさばかないことです。

もうすぐ、主イエス・キリストのご復活を祝うイースターを迎えます。どのような状況下にあっても、罪と死の力を打ち破って復活してくださったキリストが、私たちの主であられ、私たちが礼拝し続けるお方です。どのようなかたちであっても、私たちの毎主日の礼拝は、キリストの十字架の贖いと復活の力にあずかり、私たちの希望が新たにされる時です。